

交通ルールを守って
つながる笑顔



かながわの交通

2013

11

交通安全年間スローガン 一般部門：運転者（同乗者を含む）に対するもの
～ 内閣府特命担当大臣賞（優秀作）～

今点けて！ まだ明るいば もう暗い



(中郡二宮町 川勾神社例大祭)



自転車はどこを走ったらいいの…？ 教えて！

自治会・企業・高齢者の集まりなどで

チリン・スクール を一緒にやりませんか。



◎県内の交通事故発生概況(10月末)

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数
平成25年		27,699	130	33,107
平成24年		30,320	137	36,178
増減数		-2,621	-7	-3,071
増減率		-8.6	-5.1	-8.5

◎県人口・運転免許人口

	総数	男	女
県人口	9,081,742	4,544,198	4,537,544
免許人口	5,567,422	3,229,049	2,338,373
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.9人に1人

(県人口は平成25年10月1日、免許人口は平成25年9月末現在)

飲酒運転根絶強化月間

乗る人に 飲ませるあなたも 犯罪者

実施期間

平成25年12月1日(日)～12月31日(火)の1か月間

目的

依然として後を絶たない悲惨な交通事故を引き起こす飲酒運転を根絶するため、飲酒運転の危険性・悪質性を訴える運動を県民総ぐるみで展開します。

スローガン

乗る人に 飲ませるあなたも 犯罪者

重点

- ・ 飲酒運転根絶運動の周知徹底と広報啓発
- ・ 飲酒運転を助長する環境の根絶

交通安全協会の推進事項

- ・ キャンペーンやイベントなどの機会を利用して、飲酒運転の



根絶を呼びかけます。

- ・ ハンドルキーパー運動をドライバーや飲食店等に対して積極的に働きかけ、本運動の実践、普及・拡大に努めます。

- ・ 機関誌「かながわの交通」等により飲酒運転根絶、ハンドルキーパー運動の実践について効果的な広報啓発活動を推進します。

- ・ 警察等と連携を密にして、飲酒運転根絶の気運を高めるとともに、警察等が行う活動に協力します。

2013飲酒運転を根絶しよう! 県民大会

- 日時 平成25年11月22日(金)14:00～
- 場所 海老名市上郷476番地の2「海老名市文化会館小ホール」
- 概要 飲酒事故犠牲者に対する黙祷、飲酒事故の手記朗読、独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 副院長 松下幸生先生による講演、飲酒運転根絶宣言
- 「飲酒運転を根絶しよう!!」県民キャンペーン
飲酒運転根絶宣言後、場所を海老名駅東口ペDESTリアンデッキに移動して、「許しません 飲酒運転許す人」の標語入りティッシュボックスやチラシなどの啓発物品を配布しながら、駅乗降客、通行人に「飲酒運転根絶」、「ハンドルキーパー運動の実践」などを呼びかける予定です。

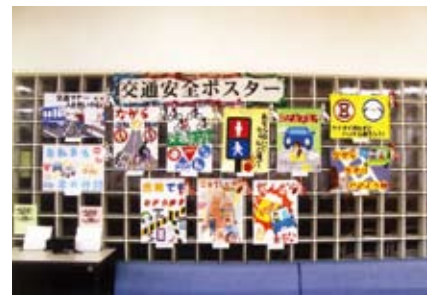
「交通安全ポスターコンクール」で交通安全

中原交通安全協会(黒田満会長)では、地域交通安全活動推進委員が区内の中原中学校に交通安全を呼びかけて、夏休みの課題として「交通安全ポスター」を募集し、コンクールを実施しました。

各学年から計222点の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞5点、努力賞5点の計11点が選ばれ、10月8日中原警察署で表彰式が行われましたが、その経過が新聞報道されるなど、参加した中学生はもちろん、区民等に対する広報啓発、交通安全意識の高揚などに効果があったことに、コンクールを開催した関係者は喜んでいました。

最優秀賞の作品は、「交通ルール守ってる?」と中央に大きく、その上に区内で多発している自転車事故を防止するための自転車の2人乗りや、携帯を使用しながらの自転車利用を描いて警告しています。

入賞作品は11月末まで警察署ロビーに掲示しているほか、東急バスの協力によりバスの車内にも掲示して区民に交通安全を呼びかけています。



自転車安全整備制度推進ブロック会議

「自転車安全整備制度(TSマーク制度)」の普及・促進を図るため、10月10日(木)午後、茨城県水戸市において(公財)日本交通管理技術協会主催による「自転車安全整備制度推進(関東)ブロック会議」が開催されました。

この会議は、毎年、ブロック内の都県自転車安全整備管理者(自転車商協同組合理事長)及び交通安全協会専務理事等が一同に会し、警察庁、関東管区警察局、開催場所の警察(茨城県警交通部)から出席をいただき、開催されています。

会議の前に、昨年度TSマークの普及促進に功労があった協会等に対する感謝状の贈呈式が行われ、当県協会も3年連続で受賞の栄に浴しました。

会議では主催者、来賓からそれぞれ挨拶、主催者側から「TSマークの普及拡大状況」、



感謝状を受ける西村専務理事(左)

「TSマーク付帯保険の補償額の改定」等についての説明があり、その後ブロック内各都県交通安全協会等からTSマークの普及拡大方策についての事例発表、補償額の改定等に関する質疑応答も含めて今後のTSマークの普及拡大に向けた活発な討議が行われました。

なお、当協会としては今年度もTSマークの普及拡大に努めており、9月末現在で前年度比50%増と順調に推移しています。

TSマークを貼りましょう!

**TSマークには
保険が付いているので安心です!**

年に一回、自転車安全整備店で、点検・整備を受けると、そのしるしとしてTSマークが自転車に貼付されます。
TSマークには賠償責任保険と傷害保険の2つがセットになった1年間の付帯保険が付いているので、もしもの時に安心です。
お近くの自転車安全整備店へご相談ください。



TSマークの種類と付帯保険の補償内容

第一種TSマーク (青マーク)		第二種TSマーク (赤マーク)	
加入料	150円以上	加入料	150円以上
死亡・重傷後遺障害 (1-4級)	1万円	死亡・重傷後遺障害 (1-4級)	10万円
死亡・重傷後遺障害 (1-7級)	30万円	死亡・重傷後遺障害 (1-7級)	100万円
死亡・重傷後遺障害 (1-7級)	1,000万円	死亡・重傷後遺障害 (1-7級)	2,000万円

受賞おめでとうございます

警察本部長・地域交通安全活動推進委員協議会連絡協議会長連名表彰

○ 個人功労者

(47人) (敬称略)

徳子(三崎)、岩澤晴人(葉山)、小宮幸二、山

程島正雄(加賀町)、本元洋、中村悟(鎌倉)、

佐久間遵、高橋慎一、木村義秋(茅ヶ崎地区)、

串田修二(山手)、安齋北潟一郎、尾崎輝雄

嘉修(金沢)、中垣忠二(小田原)、桐山巧、浜

郎、中山善雄、村田由田八太郎(松田)、天

夫(伊勢佐木)、平瀬野要(伊勢原)、加藤

三男(神奈川)、小清武(相模原)、伊藤公

水宏始、松浦泰弘、伊男(相模原南)、内田雅

藤保義(鶴見)、山野仁(相模原北)、平井

辺和子(保土ヶ谷)、信幸(津久井)

足立伸夫、岩下幸男

○ 功労団体

(旭) 真板保昌(港北)

(3地区協議会)

小林和夫、窪田三佐

・ 栄警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会

男、土岐ひとみ(緑)

伊東邦夫(泉)、門間

代表: 鈴木一美

修(横浜水上)、香山

・ 多摩警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会

政孝(川崎臨港)、吉

大川健、鈴木敏春(高

津)、梅田希世志(多

摩)、飯塚實(麻生)、

多田かほる(田浦)、

・ 大和警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会

岡昌憲、富永正樹(浦

賀)、藤井正男、和田

代表: 古郡保正

交通事故の悲劇に学ぶ⑩

●「操る車に操られた私」

暮れもおしこめた12月4日曜日、こし最後になるであろう休日をドライブに出かけた。行きかう人も車も気ぜわしく、町は活気に満ちあふれ、明日から迎える本年最後の追い込み商戦のため、英気を養う私には、格好のドライブであり楽しい一日であった。帰路、夕食をと立ち寄ったレストランで、偶然にも酒をくみかわしている旧友に出会った。しばらくぶりに会った懐かしさからか、話はずみ、気がついたときには、グラスを手に友とともに騒いでいた。そんな私はいっしょに行った友にたしなめられ、食事を済ますと未練を残しながらも家路についた。

ほろ酔い機嫌の顔に当たる冷気が心地よく、自然と鼻唄さえ出てくる。そんなとき、火の付いたタバコを床に落としてしまった。午後10時30分、郊外の一本道として、行きかう車もまばら、そんな安心感からか、車も止めず落としたタバコを拾うことに気を奪われ、前方注視を怠ってしまった。あいにく落としたタバコは、コンソールボックスと座席の間に落ちなかなか拾えない。そのとき、「バダー」とも「ドスー」とも鈍い異様な音とともにショックを感じた。あわてて顔を上げたが、何の異状も見うけられない。闇の中に白い一本道をライトが映し出しているだけだった。

車を止め、降りて見ると左側のバンパー・フェンダーが歪み2灯ある前照灯の外側の球が欠けている。そんな車を見て、「自分がなにか」を跳ねたことを知った。しかしまだこの重大さに気づかず、道路工事のゴムの標識でも跳ねたのだろうと考えていた。それでもなんとなく不安になり、車を道路端に寄せて歩いてみた。月夜に照らし出された道がどこまでも続き、その先に数名の人たちがなにか怒鳴りながら駆け回っている。不吉な予感と、寒さに体も震えだし、私はそこへと走った。

そこに見たものは、2人の人間が微動だにせず横たわり、その回りを「警察を、救急車を、ひき逃げだ!」そんな言葉を交わしている人たちだった。私は全身から血の気が失せ、目の前が暗くなり、へなへなとその場へ座り込んでしまった。我にかえったときは留置場の中だった。眠れぬ夜を悶々と過ごし、朝を迎えても信じられず、夢であってくれと祈ってはみたが、事情聴取という取り調べにて現実のことと知った。悔やんでみても



後の祭り、取り返しのつかない自分の犯した罪の重大さに、改めて身ぶるいするだけであった。

数日を留置場で過ごし、保釈にて被害者宅へ。初対面の被害者は額の中。生前の穏やかな笑みを浮かべた遺影を焼香の煙が包み、その前には遺児が涙も枯れつくしたように、放心状態のうつろな目で私を迎えた。怒る気力すら、もうないらしい。無理もない。私の身勝手な振る舞いから、なんの罪もないこの子の両親の命を一瞬のうちに奪ってしまったのだ。それも一人っ子で寵愛されて育ったらしい彼はまだ19歳、まだまだ親に甘えていたい年ごろなのに……。そんなご子息に、いかような謝罪の言葉をかけたらよいのやら、ただただ頭を下げ許しを乞うだけであった。

そんな私に被害者の兄は言った。「事故は憎い。でも同じハンドルを握る私たちも明日はわが身、今さら怒ってもあの子の親は帰らない。今となっては一人残されたあの子を兄弟同様、導いて行ってほしい。仏もそれを一番願っているだろうし、それがなによりの供養であろう」そんな温かな言葉をかけていただいた。しかし、温かな言葉であればあるほど、自分の愚かさを悔やみ苦しんだ。いっそのこと、罵声を浴びせてくれたほうが気が楽になったかもしれない。私の愚かさのゆえに犠牲となった遺児のためにもと、固く霊前へ誓う私であった。

それからまもなく刑も確定、当所へ。自分なりに覚悟はしてきたつもりでも、一般社会であまりにも暢気に生活してきた私には、戸惑いの連続であった。そんな私も、人命の尊さを再認識するとともに、いかに運転以前の心構えに欠けていたかを知ることができた。そして、二度と同じ過ちを起さぬよう、自分を戒め鍛え直すべく努力する毎日を送っています。

～(一財)東京都交通安全協会編集発行 「贖いの日々(第15集)」から～

インフォメーション

- 飲酒運転根絶強化月間
_____ (12月中)
- 二輪車安全運転特別講習
_____ (12/7)
- 年末の交通事故防止運動
_____ (12月11日～20日)

賛助会員のご紹介

このコーナーでは、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。(敬称略)

- セコム(株)
_____ 横浜市港北区新横浜
- (株)重慶飯店
_____ 横浜市中区山下町
- 全国共済神奈川県生活協同組合
_____ 横浜市中区常盤町

●●●●●●●●●● 地域交通安全活動推進委員研修 ●●●●●●●●●●

地域交通安全活動推進委員(以下「推進委員」という。)は、道路交通法及びそれに基づく国家公安委員会規則を根拠に、「地域における交通の安全と円滑に資するための活動」として、

交通安全教育、広報・啓発、協力要請、相談、協力援助、実地調査

等を広く行うことが期待されておりますが、その身分は地方公務員法に規定する非常勤の特別職の地方公務員で、報酬の支給されない名誉職であり、その地位を政党や政治目的のために利用することは禁じられています。

県協会は、公安委員会から交通安全活動推進センターとして指定を受け、推進委員に対する研修を行うこととされています。研修内容は、道路交通法の改正、交通事故の発生状況、活動中の事故防止等で、当協会の職員が各地区に赴いて研修(地区別研修、ブロック別研修)を行っていますので、未実施地区にありましては事前に日程等調整のうえ、計画的な研修をしていただくようお願いいたします。



厚木警察署管内地区の研修会

●●● 二輪車安全運転指導員養成講習会・資格審査の実施 ●●●

県二輪車安全運転推進委員会(西村昇委員長)では、県警交通部、神奈川県二輪車安全普及協会等の協力を得て、10月19日(土)、運転免許試験場において二輪車安全運転指導員養成講習会・資格審査を実施しました。

この講習会・審査は、二輪車運転者に対する積極的かつ効果的な交通安全教育を推進することを目的に毎年行われていますが、今年は日本郵便南関東支社の方をはじめとして二輪販売店従事者、二輪愛好家など昨年より多い39名の方が受講しました。

当日は、開講式に続いて、午前中は県警担当官による適性検査、学科講習、学科テスト、午後からは二輪車安全運転推進委員会特別指導員の指導で実技講習を行った後、実技テスト。最後に面接審査を行いました。今年度から実技部門を充実させるため、特別指導員及び訓練時間を増やし、イラスト入りの訓練資料も準備して受講生から好評をいただきました。



合否については、後日、判定委員会を開催し、11月中旬ごろまでに県二輪車安全運転推進委員会から合格者本人に連絡、合わせて認定証、指導員手帳、バッヂ、ワッペンが交付される予定です。

●●● 新任事務長紹介(山手交通安全協会 池田義夫事務長) ●●●

【抱負】

本年9月1日付で山手交通安全協会の事務長に就任しました池田でございます。

平成19年3月、神奈川県警察を定年退職した後、横須賀市役所市民安全部に今年の春まで、非常勤職員として勤務しておりました。



警察では、その大半を生活安全部門の仕事に従事させていただきました。

この夏、知人から交通安全協会事務長のお話をいただきましたが、交通関係の仕事は全く経験がありませんので、正直なところその職が勤まるかどうか不安な気持ちが脳裏を横切りました。しかし、折角知人が好意により声をかけてくれたことや、20年前、山手警察署防犯課で勤務したことから、懐かしく思うと同時に何か引かれるものを感じまして、お世話になることになりました。

久しぶりの山手地区は、建物も増え、街路樹も大きくなって街並みが変わり、時の流れを感じております。

現在、神奈川県交通安全協会をはじめ、関係機関のご指導を賜りながら、手探りの状態で業務に取り組んでいるところです。

今後は、微力ではありますが交通安全協会役員、交通指導員、さらには地域の皆様方と一緒に、山手の地域から交通事故が減少するよう努めてまいります。

どうぞ、よろしく申し上げます。

【プロフィール】

岡山県出身で浦賀に妻と長女の3人で住んでいます。

ゴルフが生き甲斐の人生です。

ゴルフは下手で、100前後のスコアですが、休日には、葉山や千葉方面でプレーしています。



ハンドルキーパー運動の紹介

ハンドルキーパー運動の紹介

その294 葉山町交通安全協会

葉山町交通安全協会(加藤清会長)では、葉山ふるさとひろばにおいて、違法駐車追放運動キャンペーンの機会に、飲酒運転ゴーグルとラインチェッカーを活用し、飲酒運転の根絶を呼びかけるとともに、ハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その293 港南交通安全協会

港南交通安全協会(高森政雄会長)では、港南交通安全フェスティバルにおいて交通安全コーナーを設け、トラフィック体操やスケアードストレイトのほか、飲酒運転疑似体験を実施し、飲酒運転の根絶とハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その296 海老名市交通安全協会

海老名市交通安全協会(佐久間幸志会長)では、小田急線海老名駅ペデストリアンデッキにおいて、会長手作りの「飲酒運転根絶」の看板を掲げ、グッズを配布しながら運動の周知・実践を呼びかけました。



その295 平塚市交通安全協会

平塚市交通安全協会(川口淳会長)では、警察署、市対協とともにJR平塚駅北口周辺の飲食店を「飲酒運転根絶」の幟旗を掲げて訪問し、ポスターの掲示を依頼、啓発物などを配布しながらハンドルキーパー運動の実践、飲酒運転事故防止について呼びかけました。



「交通安全子ども自転車大会」優勝旗を新調

(公財)神奈川県交通安全協会では、自転車競技及びその事前訓練を通じて子どもに自転車の安全走行に関する知識と技能を身に付けさせ、交通安全に対する興味と関心を高め、交通ルール遵守、マナーの向上等交通安全意識の高揚を図ることにより、自転車に関連する交通事故を防止するため、毎年「交通安全子ども自転車大会」を開催していますが、この度、その優勝旗を新調しました。

新優勝旗は、鮮やかな濃紺を基調とし、中央に自転車に乗用中の子どもをイメージ、県の花であるユリを配置した見栄えのするもので、納品後すぐに本年優勝した厚木市立清水小学校にお届けして、現在は同小学校校長室に飾られています。

来年度第45回大会は7月5日(土)に横浜文化体育館で開催を予定していますので、早くから計画・訓練して是非この栄えある新優勝旗を勝ち取ってください。





高津交通安全協会
会長 沼田 忠男さん
ぬまた ただお



高津交通安全協会の活動エリアである高津区は、J・R南武線や東急田園都市線の溝口駅を中心として発展してきました。多くの商店や住宅が建ち並び、J・R南武線周辺から多摩川寄りの比較的平坦で自転車利用者が多い高津地区と、横浜寄り多摩丘陵の南部に位置し緑豊かで起伏があり自動車やバイクの利用者が多い橘地区、という交通事情の異なる2つの地域で構成されています。

高津区では、春・夏・秋と年末の交通安全運動等に加えて、市制記念花火大会、橘ふるさと祭り、大山街道フェスタ、大山街道をパレードする高津区民祭など、毎年多くのイベントが開催され、当協会としても交通対策等に忙しい日々を過ごしています。

沼田会長は、橘地区の蟹ヶ谷古墳群のある緑地の近く、自然に囲まれた農家に生まれ、農業を主としてきましたが、現在は長男とともに不動産管理の仕事をしています。会長の交通安全協会のかかわりは、昭和61年6月、交通指導員に就任した

のが始まりで、橘地区支部長、交通指導部長を歴任し、交通安全運動の第一線現場で街頭交通指導に当たるなど、現場の苦労を肌で感じながら活動してきました。平成22年5月からは副会長として協会の運営に参画し、平成25年5月に開催された総会で会長に就任しました。

高津区内の交通事故件数は年々減少しているものの、自転車や二輪車、高齢者の事故が目立っています。会長は、「交通安全の基本方針は人を優先すること、道路を利用する人は常に人のことを心がけてほしい。事件でも事故でも無くす命は同じであります。交通安全については、これが絶対という対策はない、だからこそ日々、安全意識を促すことが大切だと信じており、警察や区、各団体等との連携をより一層密にし、交通安全対策を図っていききたい。」とのこと。

今年度は、特に、多発する歩行中の高齢者事故など、高齢者の特性を踏まえた交通安全教室の開催を積極的に支援、協力しているところで、さらに交通安

全活動をより一層充実するため、交通指導員の増強、関係者の交通安全各事業への積極的な参加を推進していきたいと考えています。

会長は地元で10年前から保護を務めるなど、ボランティア活動に携わる中で、色々な人や様々な考え方と出会い、大変であったが、人生勉強にもなり振り返ればいいことのほうが多かったですと話しています。現在72歳。趣味のゴルフとカラオケが健康の秘訣とのこと。会長就任後はその回数が増減してしまいましたが、近くに住む4人の孫が訪ねてくると心が和むそうで、孫との交流を楽しんでいます。

周囲に支えられて約30年にわたり交通安全活動に携わってきましたが、これからは会長として周囲を支えていきたい。前任者の任期途中での会長就任ですが、引き受けた限りは全力で活動に取り組んでいきたいと精力的に協会運営に当たっています。

(取材協力：高津交通安全協会)

こんにちは
「大和綾瀬交通安全協会」です

大和綾瀬交通安全協会は、「見える交通安全協会」を目指した交通安全活動を積極的に展開しています。

今回はその活動の一つ、悪質重大交通事故に直結する飲酒運転の根絶を図るために取り組んでいます「ハンドルキーパー運動」について紹介します。

「ハンドルキーパー運動」という言葉は、いまだに一般になじみが薄いため、最初に取り組んだことは、各種キャンペーンや会合等において「ハンドルキーパー運動」の趣旨、経緯等の説明を行い、運動の必要性や、運転者、同乗者、飲食店従業員等関係者の責任、飲酒運転交通事故の悲惨な実態など、その詳細が記載されたチラシを配布し広報啓発することでした。

具体的には、年末の警察や交通関係団体総出の飲酒運転根絶キャンペーンのほか、毎年5月に開催される「大和市民まつり」や11月に開催される「大和産業フェア」などのイベントに参加して、開催場所の一角にブースを設けて飲酒体験ゴーグルとラインチェッカーを活用した飲酒根絶キャンペーンを展開して子どもから大人までの広い世代にハンドルキーパー運動の周

知、実践、普及、拡大に努めたほか、地元警察署と連携して小田急線や相鉄線の各駅に集中する飲食店を訪問し、飲酒運転の根絶に関心の低い店舗に対しても、チラシやハンドルキーパーミニ幟旗などを配布し、更には折しも報道等で話題になっている飲酒事故の悲惨な事例などをもとに、車両で来訪した運転者に酒類を提供して交通事故を起こした場合の店舗側の責任について、丁寧に説明して当該運動に対する理解と協力を求めました。

その後、これらの活動による飲食店の理解状況を見て、大和市交通安全対策協議会や市内の飲食店関係者に働きかけて「飲酒運転追放の店」を委嘱するため、多くの人が集まる飲食店が入る大型店舗のイベント広場において、市長や警察署長等交通関係団体の関係者が出席する中で委嘱式を実施し、併せて飲食店代表者による「飲食店からは飲酒運転を絶対に出さない」宣誓式を実施しました。

また、同対策協議会と連携して、地域ぐるみ、街ぐるみでの「飲酒運転根絶」気運を高めるため、特に開発発展が著しい高座渋谷谷地区を指定し、同地区飲食店の営業時間帯に集中訪問して「飲酒運転根絶の店」プレート、「ハンドルキーパー」ミニ幟旗、ポスターを配布して、掲示を求め「ハンドルキーパー運動」の普及拡大に



努めました。

その他、賀詞交歓会等飲酒を伴う各種会合においては、各テーブル席に「ハンドルキーパーバッジ」を配布して司会者から当該運動の趣旨を説明するとともに、車両で来訪した人にバッジの着装を求めて飲酒しない人の識別を行い、「飲酒運転根絶」を徹底しています。

このような活動が認められ、第51回交通安全国民運動中央大会においては優良交通安全協会として表彰をいただきましたが、今後も、警察をはじめ関係機関・団体と連携を強化し、「見える交通安全協会」を目指す各種活動を積極的に展開してまいりたいと考えています。

(小島 記)

地区交通安全協会の活動紹介

違法駐車追放強化運動



青葉
田園都市線たまプラーザ駅前テラスにおいて、警察署員とともに「迷惑駐車（輪）追放」の幟を立て、同駅利用者等通行者（車）に違法駐車、駐輪の追放を呼びかけました。



麻生
小田急線新百合ヶ丘駅前広場において、チラシやウエットペーパーなどの啓発品を配布し、駐車警告カードをワイパーに挟みながら違法駐車、駐輪の追放を呼びかけました。



茅ヶ崎地区
JR茅ヶ崎駅前において、副市長、警察署長、石田会長の挨拶の後、「迷惑駐車（輪）追放」の幟を掲げ、啓発物品を配布しながらキャンペーンを実施しました。



座間
警察署前交差点において、警察署員や市役所職員とともに、違法駐車追放の幟を掲げ、信号待ちの車両を重点にチラシやマスクなどのグッズを配布しながら違法駐車追放キャンペーンを実施しました。



保土ヶ谷
保土ヶ谷警察署駐車場に集まり、板橋会長等の挨拶後、同署から相鉄線天王町駅まで幟を掲げ、啓発物品を配布しながら歩いて違法駐車追放キャンペーンを実施しました。



泉
地下鉄立場駅前において、「違法駐車追放」及び「放置自転車、放置バイク追放」の幟を掲げ、チラシ等を配布しながら違法駐車追放運動、「放置自転車追放キャンペーン」を展開しました。



藤沢北
相鉄線湘南台駅前において、違法駐車追放キャンペーンを行い、富田会長、警察署交通課長の挨拶の後、通行車両等に啓発物品を配布しながら違法駐車追放の追放を呼びかけました。



厚木警察署管内
厚木警察署講堂に集めて3班に分けて幟を掲げながら小田急線本厚木駅前周辺道路をパトロールし、違法駐車車両に迷惑駐車はやめましょうのステッカーを貼付し、ドライバー等に違法駐車追放の追放を呼びかけました。

編集後記

今年の秋は記録的な数の台風が発生し、度重なり日本列島に接近しました。とりわけ台風26号は関東各地を暴風域に巻き込み、伊豆大島では土石流により大きな被害をもたらしました。被害に遭われた方々には謹んでお見舞い申し上げます。

今年の交通事故の方は、件数、死者数、負傷者数とも減少していますが、高齢者との二輪車の事故の占める割合が高くなっているのが特徴です。

この内、高齢者の事故については、高齢者人口の増加だけでなく、高齢者特有の事情として、老化による体力や判断力の低下などが影響しているようです。

ところが、最近の高齢者は自分の体力や判断力の低下を認めたがらない傾向があります。それは私自身もそうなのですが、いつまでも若さを保つためには、「まだ若いまだ若い」と言い聞かせて生活する方が良いと思っているからです。また、そう思う習慣は、医学的にも「良い事」とされている感があります。しかし、そういった習慣が、自分の身体機能が衰えてきていることが自覚できない、あるいは自覚しようとならない原因になっているように思います。年を取るにつれ、若い頃と比べて運動能力や身体機能が低下することはしかたがないことです。事故防止に交通规则を厳守することは大前提ですが、こうした変化を真摯に自覚して、無理せず安全な行動を心がけることが重要ではないでしょうか。

私も来年は還暦を迎えます。自分の運動能力や身体機能の変化を認識し、ゆとりを持って行動することを心がけたいと思います。高齢者社会が今後ますます進展する中、高齢者の交通事故対策には、高齢者本人だけでなく周囲にいる方々の理解も重要です。ドライバーの皆さんも高齢者の動きに対応できるやさしい運転をよろしく願います。

(大平 記)